

◆A 主として知識に関する問題

| 特に課題が見られた内容 | 要因 | 指導上の工夫 | | | | | | | | | |
|---|-------|--------|------|----|-------|-------|----|-------|-------|--|--|
| <p>「除法の意味」 除法の結果を分数で表すこと</p> <p>(数と計算)【短答式】 設問2(2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>正答率</th> <th>無解答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td> <td>34.7%</td> <td>6.5%</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>40.2%</td> <td>5.4%</td> </tr> </tbody> </table> | | 正答率 | 無解答率 | 本県 | 34.7% | 6.5% | 全国 | 40.2% | 5.4% | <ul style="list-style-type: none"> 商を表す分数の意味(分数の第二義)の理解に課題がある。 数量を等分したときの一つ分を分数で表すことの理解に課題がある。 | <p>●商を表す分数の意味(分数の第二義)を実感できる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 長さを3等分する線分図で比べたり、1ℓを3等分する液量図などを描いたりすることにより、2ℓを3等分した1つ分の量は1/3ℓの2つ分と等しいことを実感させることが大切である。 求めた答えが問題に合っているかどうかを問題場面と対応させて検討したり、確かめたりできるようにすることが大切である。 |
| | 正答率 | 無解答率 | | | | | | | | | |
| 本県 | 34.7% | 6.5% | | | | | | | | | |
| 全国 | 40.2% | 5.4% | | | | | | | | | |
| <p>「割合」 割合の意味を理解していること</p> <p>(数量関係)【短答式】 設問9(1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>正答率</th> <th>無解答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td> <td>57.3%</td> <td>11.4%</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>57.4%</td> <td>10.4%</td> </tr> </tbody> </table> | | 正答率 | 無解答率 | 本県 | 57.3% | 11.4% | 全国 | 57.4% | 10.4% | <ul style="list-style-type: none"> 割合を求めるために必要な2量に着目することに課題がある。 割合を比較量÷基準量で求め、小数や分数などを用いて表現することに課題があり、無解答率も高い。 | <p>●割合の表す意味を実感できる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 線分図に比較量、基準量を表すなどして、問題の文章から2量の関係を理解させることが大切である。 数直線を用いた図や線分図に数量を表して関係をとらえることができるようにあらゆる場面で繰り返し指導することが大切である。 計算に対する抵抗感をなくすように繰り返し指導することが大切である。 |
| | 正答率 | 無解答率 | | | | | | | | | |
| 本県 | 57.3% | 11.4% | | | | | | | | | |
| 全国 | 57.4% | 10.4% | | | | | | | | | |

◆B 主として活用に関する問題

| 特に課題が見られた内容 | 要因 | 指導上の工夫 | | | | | | | | | |
|---|-------|--------|------|----|-------|-------|----|-------|-------|--|---|
| <p>「図形の大きさを筋道を立てて考え、数学的に表現する」 示された図形を観察して、与えられた条件を基に長方形の大きさを考え、それを辺の長さと言葉を用いて記述すること (図形)【記述式】 設問2(1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>正答率</th> <th>無解答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td> <td>30.0%</td> <td>13.8%</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>31.7%</td> <td>13.6%</td> </tr> </tbody> </table> | | 正答率 | 無解答率 | 本県 | 30.0% | 13.8% | 全国 | 31.7% | 13.6% | <ul style="list-style-type: none"> 描かれた図形から必要な条件や情報を観察し、それを表現することに課題がある。 説明している対象を明確にし、用語を用いて図形の形を表現することに課題があり、無解答率も高い。 <p><u>事実の説明</u> <u>移行措置</u></p> | <p>●算数の用語を使って説明し合う学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の図を見比べて分かる事柄を整理したり、辺の長さを図に書き入れたりする等、数値や条件を基に、分かることを明らかにし、筋道を立てて考えさせる指導が大切である。 児童が自分の考えを算数の用語を用いて表現できているかを確かめることが大切である。 考えの筋道を振り返る場を設定し、考えの進め方に着目できるようにする活動を取り入れることが大切である。 |
| | 正答率 | 無解答率 | | | | | | | | | |
| 本県 | 30.0% | 13.8% | | | | | | | | | |
| 全国 | 31.7% | 13.6% | | | | | | | | | |
| <p>「割合の考えを基に、判断した理由を数学的に表現する」 割合が一定で、比較量が最も大きくなる時の基準量を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述すること (数量関係)【記述式】 設問5(2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>正答率</th> <th>無解答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td> <td>15.2%</td> <td>4.5%</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>17.1%</td> <td>4.5%</td> </tr> </tbody> </table> | | 正答率 | 無解答率 | 本県 | 15.2% | 4.5% | 全国 | 17.1% | 4.5% | <ul style="list-style-type: none"> 比較量、基準量、割合の関係を基に、割合が一定の場合には、比較量の大小が基準量の大小で判断できることの理解に課題がある。 判断した理由を説明する際に根拠となる事柄を言葉や式を用いて過不足なく記述することに課題がある。 <p><u>理由の説明</u></p> | <p>●説明するために必要な事柄を考える学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に全てを計算して比較する場合に比べて、比較量、基準量、割合の関係を根拠として言葉で説明できることのよさを気づかせる活動が大切である。 説明に必要な事柄を教師が分かりやすく板書して児童に理解できるようにしたり、ノートに整理して書かせたりする活動を取り入れることが大切である。 |
| | 正答率 | 無解答率 | | | | | | | | | |
| 本県 | 15.2% | 4.5% | | | | | | | | | |
| 全国 | 17.1% | 4.5% | | | | | | | | | |
| <p>「示された考えを基に、判断した理由を数学的に説明する」 示された図や考えを基に、長さの大小を判断し、その判断の理由を求める式と言葉を用いて記述すること (図形)【記述式】 設問6(2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>正答率</th> <th>無解答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本県</td> <td>13.7%</td> <td>8.8%</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>14.6%</td> <td>9.2%</td> </tr> </tbody> </table> | | 正答率 | 無解答率 | 本県 | 13.7% | 8.8% | 全国 | 14.6% | 9.2% | <ul style="list-style-type: none"> 示された図や考えをもとに、長さの大小を判断し、判断の理由を、求める式と言葉を使って記述することに課題がある。 根拠を示したり、対象を明確にしたりして説明をすることに課題がある。 <p><u>理由の説明</u></p> | <p>●説明する過程を明らかにして、比較検討をする学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 式を用いて自分の考えや解法を説明する際、根拠や説明の対象を明らかにすることが大切である。 児童の説明を基に、その説明の内容を確認したり、補うべきことを話し合ったりして、複数の説明を見比べる活動を取り入れることが大切である。 |
| | 正答率 | 無解答率 | | | | | | | | | |
| 本県 | 13.7% | 8.8% | | | | | | | | | |
| 全国 | 14.6% | 9.2% | | | | | | | | | |